

電事連会長 定例会見要旨

(2018年6月15日)

電事連会長の勝野です。よろしくお願いたします。

本日は、「原子力エネルギー協議会の設立」と「九州電力玄海3号機、関西電力大飯4号機の営業運転再開」の2点について申し上げます。

1. 「原子力エネルギー協議会」の設立について

はじめに、原子力の自主的安全性向上に向けた新組織「原子力エネルギー協議会」の設立について申し上げます。

私ども原子力事業者は、新規制基準への対応はもとより、「原子力のリスクにゼロはない」という考えのもと、原子力安全推進協会（JANSI）や、電力中央研究所・原子力リスク研究センター（NRRC）など、外部の組織とも積極的に連携しながら、規制の枠にとどまらない、より高い次元の安全性確保に向けた取り組みを進めております。

本年3月には、私ども原子力事業者およびJANSI、NRRCのトップが一堂に会し、JANSIによるピアレビューや、NRRCと連携したリスク評価手法の充実など、原子力の安全性向上に向けたこれまでの取り組み状況や、それぞれの果たすべき役割、今後の取り組みなどについて議論を行い、相互に確認をいたしました。

さらに、メーカーも含めた原子力産業界全体で、各々の事業者が持つ知見やリソースを効果的に活用し、規制当局などとも対話を行いながら、効果的な対策を立案するとともに、原子力の現場への導入を促すことを目的とした新組織の設立に向けて、4月に「原子力新組織設立準備室」を設置して、検討を進めてまいりました。

こうした中、本日、新組織の設立総会が開催され、7月1日に「原子力エネルギー協議会」（英名：Atomic Energy Association、英略号：ATENA）が設立されることが決定いたしました。

この協議会では、原子力産業界として取り組むべき課題の検討などを通じて、独自のガバナンスのもとで自主的に安全対策を決定し、原子力の現場への導入を促すことで、専門性・透明性および客観性を持って、原子力事業者の安全向上の取り組みをさらに高い水準へ引き上げてまいります。

また、私ども原子力事業者は、協議会が決定した安全対策を、原子力の現場で着実に実行していくことで、継続的にリスク低減を図るとともに、こうした安全性向上に向けた取り組みを進めることで、社会の皆さまからの信頼回復に努めてまいります。

詳細につきましては、「原子力エネルギー協議会」の理事長に就任されることとなった三菱重工の門上（かどかみ）氏より、この後、皆さまにご説明いただく予定ですので、よろしくお願いいたします。

2. 「玄海3号機と大飯4号機の営業運転再開」について

次に、九州電力玄海原子力発電所3号機と関西電力の大飯発電所4号機の営業運転の再開について申し上げます。

九州電力では、玄海3号機が5月16日に営業運転を再開し、また、関西電力では、4月の大飯3号機に続き4号機も6月5日に営業運転を再開いたしました。

それぞれの原子力発電所の立地地域の皆さまをはじめ、関係者の皆さまのご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

この夏につきましては、各エリアとも安定供給に必要な予備率を確保できる見通しとなっており、政府からの特別な節電要請は見送られることとなりました。

たが、電力の供給面では、依然として火力発電に大きく依存している状況にあります。

これから本格的な夏を迎えるにあたり、持続可能な安定供給を確保する観点からも、安全性が確認された原子力発電所が再稼働して、営業運転を再開する意義は大きいものと考えております。

なお、玄海 3 号機は、プルサーマルを実施しているプラントであります。ウラン資源の有効活用、廃棄物の減容などの観点から、プルサーマルを含めた原子燃料サイクルは大変重要であり、引き続き着実に進めてまいります。

私どもとしては、こうした原子力発電所の再稼働や安定運転の実績を積み重ね、2030 年のエネルギーミックスの実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

< 電事連役員人事 >

最後に電事連役員人事について申し上げます。

非常勤の副会長と事務局長の退任に伴い、本日の総合政策委員会において、後任の人事が決定いたしましたので、ご報告いたします。

本日、私からは以上です。

以 上